

令和5年度 児童アンケート結果

A : はい B : どちらかといえば はい C : どちらかといえばいいえ D : はっきりといいえ

評価項目・ご意見	A	B	C	D
1 【低・中】 自分から、すすんであいさつしていますか。 【高】 あいさつすることの大切さを意識して、自分からすすんであいさつしていますか。	62.9%	29.5%	6.1%	1.5%
9割を超える児童が「A、B」と回答している。委員会活動の一環として校門であいさつ運動をしたり、朝会で児童があいさつの大切さを話題にしてきたりした成果だと考えられる。今後も誰にでも自然にあいさつができるようなよりよい関係をつくり、子どもたちにとっての安心できる学校づくりにつながるよう努めていく。				
2 【低】 クラスで安心して過ごすことができていますか。 【中】【高】 学校は、自分が安心して過ごすことができる場になっていますか。	64%	27.2%	6.4%	2.5%
9割を超える児童が「A、B」と回答している。アンケートを通して児童の声を聴く機会を増やしたり、全教職員で児童を見守り丁寧な対応を行ったりすることで児童理解が進んだことや、年間を通して行っている人権教育によって児童相互がより認め合えるようになったと考えられる。一方で、「C、D」と回答した約1割の児童の不安感に寄り添うことができるよう、さらなる実態把握に努め、きめ細やかな対応をしていく。				
3 【低】【中】【高】 学校では、健康な体を作るために進んで体を動かしますか。	59.2%	28.9%	8.4%	3.5%
約9割の児童が「A、B」と回答している。体育科学習だけでなく、運動タイムで動画を活用しながらストレッチ運動やダンスに取り組んでいる。また、夏休みには健康の保持増進を目指してなわとびカードを全学年に配付して、取り組んだ成果だと考える。今後は新体育館の有効活用など、児童が進んで体を動かせる活動を模索しながら指導していく。				
4 【低】【中】【高】 避難訓練や防犯教室で、自分の身の守り方や落ち着いた行動を身につけることが、できていますか。	73.8%	24.4%	1.6%	0.1%
9割の児童が「A、B」と回答している。これは、避難訓練やその振り返りの積み重ね、防犯教室での指導による成果だと考えられる。今後は、新校舎における避難経路の変更などを児童と確認していく。				
5 【低】 めあてを大切に学習をしていますか。 【中】【高】 課題の解決に向け、見通しをもって学習をしていますか。	54.8%	37.1%	6.3%	1.9%
9割を超える児童が「A、B」と回答している。これは、めあての確認や課題の把握、振り返りなど、思考の流れが掴みやすい授業展開や板書の工夫を行っている成果だと考えられる。今後も問題の解決に向け、見通しをもち筋道立てて探求していく力を高められる授業づくりに努めていく。				
6 【低】 友達と話し合っていて考えていくことが楽しいですか。 【中】【高】 考えや思いを友達と伝え合う中で、自分の考えを広げることができていますか。	55.8%	33%	7.8%	3.3%
約9割の児童が「A、B」と回答している。これは、少人数のグループでの話合いや、タブレット端末を用いた各自の考えの共有などで、互いに考えの違いやよさを感じることができているためだと考えられる。今後も友達と伝え合う中で、自らの考えを広げていく力を高められるよう授業形態の工夫に取り組んでいく。				

	ある	ない
7 あなたは、今のクラスで いじめられている子を見たことがありますか。	11.9%	88.1%
8 今、学校で自分がいじめで困っていることがありますか。	7.3%	92.7%

設問7では、約9割の児童が「いじめられている子を見たことがない」と答えている。この数値については、いじめられている子がいても、それを見ていじめだと感じるかどうかや、潜在化しやすいといういじめの特徴など、様々な要因が重なった結果だと言える。また、設問8では、約1割の児童がいじめで困っていると答えている。「困っている」と答えた児童の中には、いじめを実際に受けて困っている児童、いじめを見て困っている児童などがいると考えられる。

それぞれの児童の気持ちに寄り添い、汐見台小学校いじめ防止基本方針に則って迅速に対応していく。いじめの未然防止に努めていくため、各クラスで立てている人権目標や様々な取り組みや行事、実行委員会などの活動を通して、児童一人ひとりを大切にする取り組みを計画的に行う。また、教職員相互で気になることを伝え合う中で、児童にいじめは許されないことだという意識を育て、安心して生活できる学校づくりを進めていく。

また、いじめを受けて困っている児童が、友達や周囲の大人に相談したり、いじめを見た児童がそれをいけないことであると認識し注意をしたり相談したりすることができる風土づくりが大切であると考えられる。それには児童同士がお互いに自分の考えを伝えたり、自分とは違う考え方を認めたりしながらコミュニケーション能力を育てていく必要がある。今後も年間を通じた人権教育や道徳教育を通していじめを許さない学校風土づくりに努めるとともに、児童の小さな変化を見逃さないよう教職員のいじめに対する理解を深めていじめの早期発見につなげていく。